

# 校区コミュニティまつり

町内各小学校校区を単位として、平成13年に始まった、校区コミュニティまつり。今年も、10月から11月にかけて、各小学校で盛大に開催されました。

10月22日(日)には、第三小学校で「ふれあい祭り」が、11月12日(日)には、第一小学校で「すこやか秋まつり」、第二小学校で「べったんフェア」がそれぞれ行われました。



(べったんフェア)



(ふれあい祭り)



(すこやか秋まつり)



(ふれあい祭り)



(べったんフェア)



(すこやか秋まつり)

## 向こう三軒両隣 PART 2

～新たな「地域づくり」を求めて!～

### 社会教育委員からの提言

去る、10月28日(土)「向こう三軒両隣PART2」をテーマに、まちづくりフォーラムが開催されました。いち須恵町住民として、参加させていただきましたが、先ず、子どもたちが心身共に豊かに育つためには、大人がこんなに関わらないといけない時代が、今ここにあることに改めて痛感させられました。

力は云々・・・と、声高に言わなくても普段の生活の中にその三者の関係が融合し、子どもたちを見守っていたように思います。それが、昭和40年代後半の高度経済成長によって、物質的には豊かになった反面「心の豊かさ」を失ってしまったような気がします。

今思えば、貧しさの中にも他人を思いやる「心の豊かさ」があったのではないのでしょうか。時代を過去に戻すことは出来ませんが、

先ず、大人が地域に出て周りの人と親しくする。「遠くの親戚より近くの他人」とも言います。子どもの頃、母親が味噌や醤油等を近所と貸し借りしていた記憶があります。「おすそ分け」と言って、余分に作った煮物や蒸し饅頭をもたせて嬉しかった事も思い出します。

隣りに住んでいる人を知らない世の中だとも聞きます。私の所はそこまでは無いですが、会合や地域の行事が無いと数か月顔を合わさない方もいます。先ずは、家庭での大人が地域の方々と交わる事の大切さを子どもたちに行動で見せ、この世の中、独りでは暮らしていけない事を教える事が大切だと思

「家庭教育」を基本とした、新たな「地域づくり」の視点にたった生涯学習の在り方について、3人の社会教育委員さんから提言がなされましたので紹介します。



## 有識者 小林 徹行 さん

「向こう三軒両隣」に寄せて

先日、小学校を会場に行われた秋まつりも家族で地域で学校で団体でと、いろんな立場からの参加でした。日頃なかなか会えない方々も、まつりという行事があったお蔭で親交を深める事が出来たと思います。

子育ての基本は家庭から、しかし、今の子どもたちが抱えている問題や悩みは、周りの大人の協力がないと解決しないのではと思う事件が、毎日のように新聞・テレビで報道されています。子どもたちが、気軽に話し掛けられる大人になる為には、日頃のコミュニケーションが求められます。

今回のシンポジウムに参加して、もっと、子どもたちを見守る大人を増やす事が大事だと思います。次世代を担う子どもたちを見守り、健全に育成する為には、親・地域・学校が連携協力し、関係役員のみで止まらない活動が必須だと思いました。